

筑波大学特別支援教育研究第3巻刊行にあたって —特別支援教育研究センターが目指すもの—

筑波大学特別支援教育研究センター長
藤原 義博

昨年末に新学習指導要領（案）が公示されましたが、平成19年4月から始まった特別支援教育の制度もこれによって基本的な整備が整ったこととなります。これからはいよいよこの制度を活かして内容的にどう実績を積み重ねていくかが課題です。したがって、センターもこうした動向を踏まえ、特別支援教育の充実に資する先導的な研究および実践的成果を発進していくことが使命だと考えております。本研究紀要もそうした情報発信の場の一つになることを目指しております。

現在、センターでは事業の一つとして、附属特別支援学校5校による連携研究を支援し、これまでの各障害別附属特別支援学校での専門性を活かした、障害を重ね有する重複障害児への教育的支援の開発に力を入れています。第3巻では、これらの研究成果の一端として、知的障害と肢体不自由を併せ有する児童の知的障害特別支援学校での取り組みと、見えにくさのある肢体不自由児の指導について報告させていただきます。今後のさらなる発展が期待できる内容ですので、ぜひご覧いただきたいと思えます。

また、センターの中核的な事業として、毎年、各県より派遣された現職教員の研修を行っております。その研修課題として取り組まれた実践的な研修成果が報告されています。現場の実践的課題に直接向き合い取り組んだ内容ですので、今後、センターでの研修を目指す教員の方々には大いに参考にしていただければと思います。

最後に、昨年度末にセンター・セミナーとして実施した前センター長の前川久男先生の講演概要を掲載いたしました。「将来の生活に意欲的にかかわっていける力を子どもの中につける、そのために何かをしている」「それが教育の目的だ」、「抽象性より具体性が大事」で「ここに生きている人としての具体的生活を持った人間をどういうふうに私たちが理解し、科学として実現するか」というロマンチックサイエンスとしての教育の在り方を熱く語っていただきましたが、これこそ我々センターが目指すところです。先生の思いが一人でも多くの方に伝わればと願っております。